

2021年11月15日
株式会社アイスタット
News Release

株式会社アイスタット マンスリーレポート
- 若い世代に聞く「年金」に関する調査 -
(調査期間：2021年11月3日)

若い世代にとって、毎月、少ない給料から高額な年金保険料を支払っても、将来もらえる自分の年金は初任給よりも少ないということに、愕然とされる方も多いのではないのでしょうか。しかも、年金保険料は払い損？と疑問の声も耳にします。

株式会社アイスタット（本社：東京都杉並区、代表取締役社長：志賀保夫）は、若い世代が年金についてどれくらい理解し、どのように思っているのか、さらに希望の定年年齢を知る目的として、「年金」に関するアンケートを実施しました。

業界最大規模のモニター数を誇るセルフ型アンケートツールFreeasy を運営するアイブリッジ株式会社（本社：大阪府大阪市）の会員 20 歳～49歳、有職者の300人を対象に調査を実施しました。

調査結果サマリー

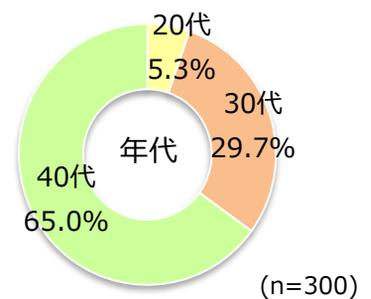
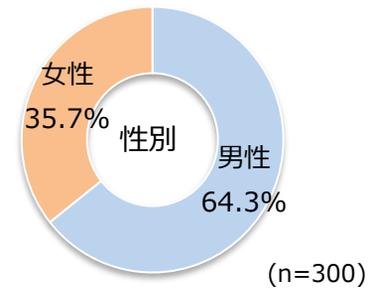
- ✔ 年金通知書「ねんきん定期便」の見方を理解している割合は40.7%、半数を下回る！
- ✔ 毎月の年金受給額を把握している割合は33%、若い層になるにつれて把握率が低い！
- ✔ 将来の年金受給額に不安を感じている人は8割、圧倒的多数を占める！
- ✔ 老後の生活資金、第1位「年金」58.3%、第2位「貯蓄」52.0%、第3位「投資」30.3%！
- ✔ 若い世代の年金受給時期・金額は、今の年金受給者より悪化すると思っている人が8割！
- ✔ 若い世代の税金負担が増えることについて、「納得できない」が47.7%、半数を下回る！
- ✔ 現在の職場で65歳まで働くことになった場合、厳しい/無理と感じている人が57.7%！
- ✔ 公的年金の受給開始が65歳の場合、希望の定年は「60～64歳」30.7%が最多！

調査概要

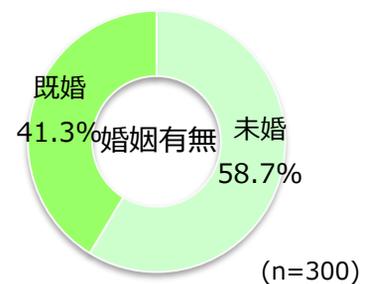
形式	Webアンケート形式
調査期間	2021年11月3日
回答者	セルフ型アンケートツールFreeasyに登録している20歳～49歳・有職者の会員 300人
調査機関	株式会社アイスタット

【回答者属性】

全体		300名	100.0%
性別	男性	193名	64.3%
	女性	107名	35.7%
年代	20代	16名	5.3%
	30代	89名	29.7%
	40代	195名	65.0%
有婚 無姻	未婚	176名	58.7%
	既婚	124名	41.3%
職業	会社員(正社員)	163名	54.3%
	会社員(契約・派遣社員)	20名	6.7%
	経営者・役員	10名	3.3%
	公務員(教職員を除く)	13名	4.3%
	自営業	22名	7.3%
	自由業	14名	4.7%
	医師・医療関係者	4名	1.3%
	パート・アルバイト	54名	18.0%
居住地	北海道・東北地方	27名	9.0%
	関東地方	134名	44.7%
	中部地方	47名	15.7%
	近畿地方	56名	18.7%
	四国・中国・九州地方・沖縄	36名	12.0%



平均年齢 (41.2才)



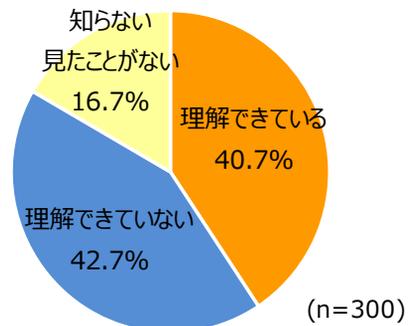
主な分析結果

年金通知書「ねんきん定期便」の見方を理解している割合は40.7%、半数を下回る！

誕生日月に送られてくる年金通知書「ねんきん定期便」の見方を理解できているかを聞き、理解有無別に分類してみたところ、「理解できていない」の42.7%が最も多く、次に「理解できている」の40.7%、「知らない・見たことがない」の16.7%が続いた。理解できている人が4割と半数を下回ったことから、年金通知書「ねんきん定期便」の見方・存在が浸透されていない実態が浮き彫りとなった。また、年齢別でみると、若い層になるにつれて「理解できている」の割合が低くなっていることにも留意されたい。

【図1】 あなたの誕生日月に送られてくる年金通知書「ねんきん定期便」について、見方を理解できていますか。
(回答は1つ)

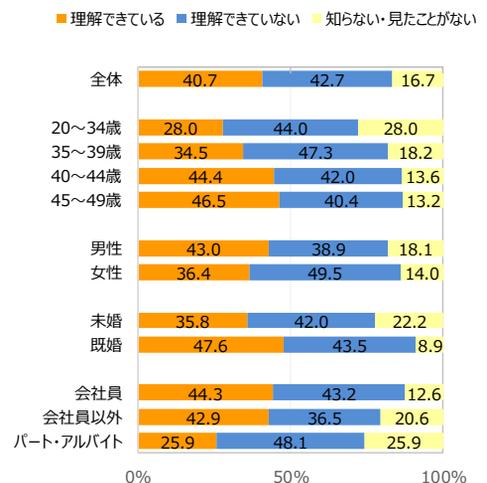
「ねんきん定期便」の見方	n	%
とても理解できている	21	7.0%
やや理解できている	101	33.7%
あまり理解できていない	100	33.3%
全く理解できていない	28	9.3%
知らない・見たことがない	50	16.7%
全体	300	100.0%



(横%表)

	年金通知書「ねんきん定期便」の見方			n	
	理解できている	理解できていない	知らない・見たことがない		
全体	40.7	42.7	16.7	300	
年齢	20~34歳	28.0	44.0	28.0	50
	35~39歳	34.5	47.3	18.2	55
	40~44歳	44.4	42.0	13.6	81
	45~49歳	46.5	40.4	13.2	114
性別	男性	43.0	38.9	18.1	193
	女性	36.4	49.5	14.0	107
婚姻有無	未婚	35.8	42.0	22.2	176
	既婚	47.6	43.5	8.9	124
職業	会社員	44.3	43.2	12.6	183
	会社員以外	42.9	36.5	20.6	63
	パート・アルバイト	25.9	48.1	25.9	54

年金通知書「ねんきん定期便」の見方



各項目を縦に見て最大値に彩色

※ 会社員以外 ➡ 経営者・役員、公務員、自営業、自由業、医師・医療関係者

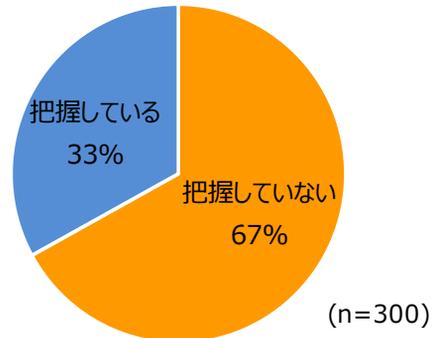
毎月の年金受給額を把握している割合は33%、若い層になるにつれて把握率が低い！

現時点で、毎月の年金受給額を把握しているかを聞き、把握有無別に分類してみたところ、「把握している」が33%、「把握していない」が67%で、把握している人が3割しかいない低い結果だった。

「把握している」を回答した人の年齢をみると、「45~49歳」で最も多かった。若い層になるにつれ、年金受給額を把握していない傾向がみられたことから、「年金」への関心が薄いのではないかと推察される。また、ねんきん定期便の見方別でみると、「把握している」を回答した人ほど、ねんきん定期便の見方を理解できている結果だった。毎月の年金受給額を把握するには、ねんきん定期便がいかにかかりやすく記載されているかが重要であると示された。

【図2】 現時点で、あなたの将来の年金受給額が毎月いくらもらえるか把握していますか。
(回答は1つ)

毎月の年金受給額	n	%
完璧に把握している	17	5.7%
どちらかといえば把握している	82	27.3%
どちらかといえば把握していない	105	35.0%
全く把握していない	96	32.0%
全体	300	100.0%



(横%表)

		毎月の年金受給額		n
		把握している	把握していない	
全体		33.0	67.0	300
年齢	20~34歳	24.0	76.0	50
	35~39歳	30.9	69.1	55
	40~44歳	33.3	66.7	81
	45~49歳	37.7	62.3	114
性別	男性	36.3	63.7	193
	女性	27.1	72.9	107
婚姻有無	未婚	26.7	73.3	176
	既婚	41.9	58.1	124
職業	会社員	34.4	65.6	183
	会社員以外	38.1	61.9	63
	パート・アルバイト	22.2	77.8	54

各項目を縦に見て最大値に彩色

(横%表)

		毎月の年金受給額		n
		把握している	把握していない	
全体		33.0	67.0	300
年金通知書「ねんきん定期便」の見方	理解できている	72.1	27.9	122
	理解できていない	8.6	91.4	128
	知らない・見たことがない	0.0	100.0	50

各項目を縦に見て最大値に彩色

	クramer係数	p値	判定
見方 × 把握	0.6919	0.0000	[**]

独立性 (カイ2乗) の検定 → クロス集計を行った結果が、母集団においても関連性があるといえるかを調べる場合
判定[**]は母集団に関連性があるといえる。

クramer係数 → クロス集計表における行要素と列要素の関連の強さを示す指標

将来の年金受給額に不安を感じている人は8割、圧倒的多数を占める！

将来の年金受給額に不安があるかを聞き、不安有無別に分類してみたところ、「不安」が80.3%で最も多く、次に「不安でない」の13.7%、「受給しない予定」の6.0%と続いた。これより、将来の年金受給額に不安を感じている人は8割と圧倒的多数を占めた。

不安を感じている人の職業をみると、「パート・アルバイト」で最も多かった。また、不安を感じている人は「ねんきん定期便」の見方が理解できていない人ほど多く、また、毎月の年金受給額を把握している人ほど多かった。いずれも納得のいく結果であった。※

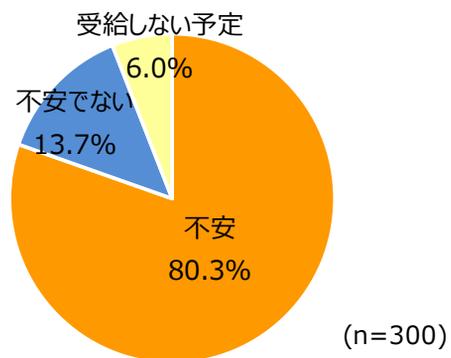
※「パート・アルバイト」➡ 正社員より経済的リスクがあるため不安と推察。

「理解できていない」 ➡ いくらもらえるのか？で不安と推察。

「把握している」 ➡ 受給額の低さで不安と推察。

【図3】 あなた自身の将来の年金受給額に不安がありますか。（回答は1つ）

将来の年金受給額	n	%
非常に不安	140	46.7%
どちらかといえば不安	101	33.7%
どちらかといえば不安でない	35	11.7%
全く不安でない	6	2.0%
年金は受給しない予定	18	6.0%
全体	300	100.0%



(横%表)

	将来の年金受給額		n
	不安	不安でない 受給しない	
全体	80.3	19.7	300
年齢			
20~34歳	78.0	22.0	50
35~39歳	76.4	23.6	55
40~44歳	85.2	14.8	81
45~49歳	79.8	20.2	114
性別			
男性	74.1	25.9	193
女性	91.6	8.4	107
婚姻 有無			
未婚	83.5	16.5	176
既婚	75.8	24.2	124
職業			
会社員	78.1	21.9	183
会社員以外	79.4	20.6	63
パート・アルバイト	88.9	11.1	54

各項目を縦に見て最大値に彩色

(横%表)

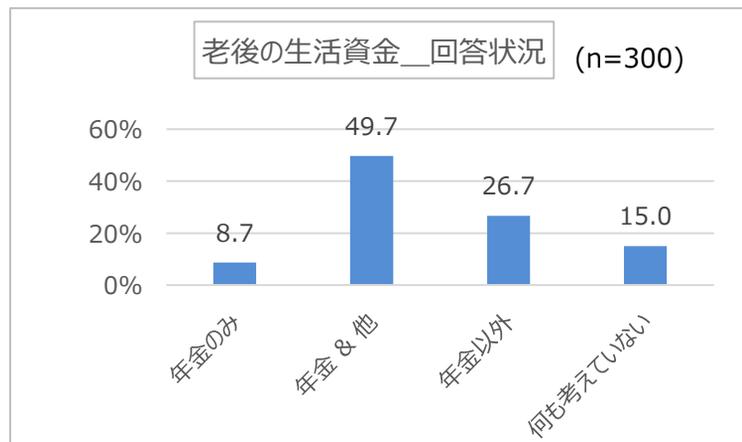
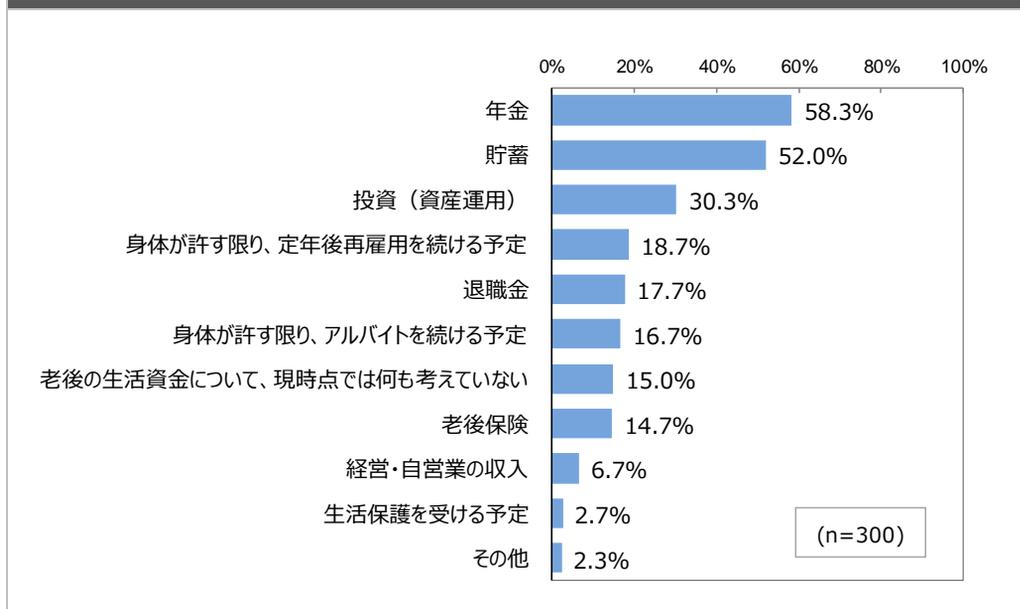
		将来の年金受給額		n
		不安	不安でない 受給しない	
全体		80.3	19.7	300
年金通知書	理解できている	83.6	16.4	122
「ねんきん定期 便」の見方	理解できていない	85.9	14.1	128
	知らない・見たことがない	58.0	42.0	50
毎月の年金 受給額	把握している	82.8	17.2	99
	把握していない	79.1	20.9	201

各項目を縦に見て最大値に彩色

老後の生活資金、第1位「年金」58.3%、第2位「貯蓄」52.0%、第3位「投資」30.3%！

老後の生活資金の考えを複数回答で聞いたところ、「年金」が58.3%で最も多く、次に「貯蓄」の52.0%、「投資（資産運用）」の30.3%の順で続いた。「年金」を生活資金に考えている人が全体の約6割という結果であったが、年金のみと回答した人の割合は全体の8.7%と圧倒的に低かった。これより、年金のみで老後を生ずることは不十分、年金のみに頼らない生活を！と考えている人が多いとわかる。現在、夫婦2人の老後生活で、日常生活に最低限必要な額は平均で22万円と言われているが、若い世代にとっては、毎月、少ない給料からの老後の備えは厳しい現状であると思われる。

【図4】 あなたの老後の生活資金の考えについて、お知らせください。（回答はいくつでも）



(横%表)

		老後の生活資金										n	
		年金	貯蓄	投資(資産運用)	身体が許す限り、定年後再雇用を続ける予定	退職金	身体が許す限り、アルバイトを続ける予定	現時点では何も考えていない	老後保険	経営・自営業の収入	生活保護を受ける予定		その他
全体		58.3	52.0	30.3	18.7	17.7	16.7	15.0	14.7	6.7	2.7	2.3	300
年齢	20~34歳	50.0	42.0	28.0	16.0	14.0	14.0	22.0	16.0	2.0	6.0	2.0	50
	35~39歳	58.2	50.9	21.8	30.9	14.5	20.0	16.4	18.2	5.5	5.5	1.8	55
	40~44歳	61.7	60.5	28.4	14.8	19.8	17.3	14.8	13.6	9.9	0.0	1.2	81
	45~49歳	59.6	50.9	36.8	16.7	19.3	15.8	11.4	13.2	7.0	1.8	3.5	114
性別	男性	56.0	45.6	35.2	19.2	19.7	11.9	18.1	15.5	6.7	2.1	2.1	193
	女性	62.6	63.6	21.5	17.8	14.0	25.2	9.3	13.1	6.5	3.7	2.8	107
婚姻有無	未婚	53.4	44.9	26.7	15.9	9.7	17.6	21.0	14.8	7.4	4.0	3.4	176
	既婚	65.3	62.1	35.5	22.6	29.0	15.3	6.5	14.5	5.6	0.8	0.8	124
職業	会社員	60.7	55.2	34.4	23.5	24.0	16.4	10.4	15.3	3.3	3.3	1.1	183
	会社員以外	58.7	47.6	30.2	11.1	12.7	7.9	17.5	14.3	22.2	1.6	3.2	63
	パート・アルバイト	50.0	46.3	16.7	11.1	1.9	27.8	27.8	13.0	0.0	1.9	5.6	54

各項目を縦に見て最大値に彩色

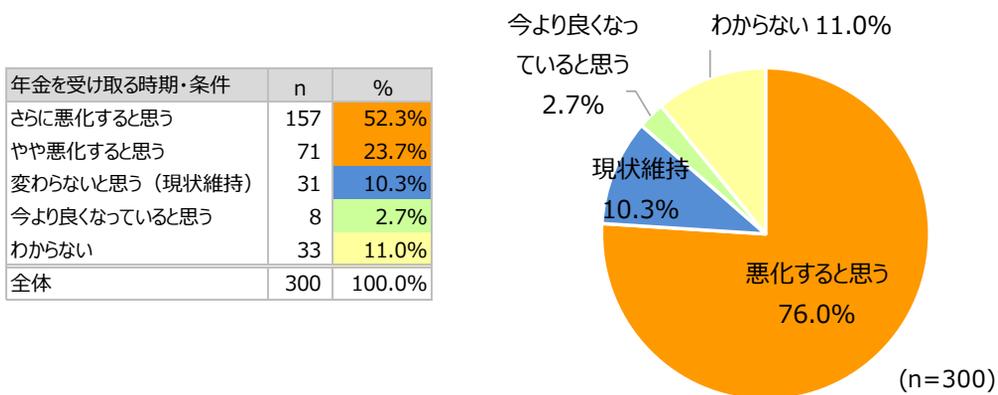
		老後の生活資金										n	
		年金	貯蓄	投資(資産運用)	身体が許す限り、定年後再雇用を続ける予定	退職金	身体が許す限り、アルバイトを続ける予定	現時点では何も考えていない	老後保険	経営・自営業の収入	生活保護を受ける予定		その他
全体		58.3	52.0	30.3	18.7	17.7	16.7	15.0	14.7	6.7	2.7	2.3	300
受給額	把握している	64.6	56.6	46.5	26.3	22.2	14.1	5.1	21.2	9.1	7.1	3.0	99
	把握していない	55.2	49.8	22.4	14.9	15.4	17.9	19.9	11.4	5.5	0.5	2.0	201
年金	不安	66.0	58.5	31.1	20.7	18.3	19.1	10.8	16.2	5.8	3.3	2.9	241
	不安でない・受給しない	27.1	25.4	27.1	10.2	15.3	6.8	32.2	8.5	10.2	0.0	0.0	59

表側項目内を縦に見て最大に彩色

若い世代の年金受給時期・金額は、今の年金受給者より悪化している人が8割！

年金を受け取る時期・金額の条件は、現在、年金を受け取っている方に比べ、どうなるかを聞いたところ、「悪化と思う」が76.0%で最も多く、次に「わからない」の11.0%、「現状維持」の10.3%、「今より良くなっていると思う」の2.7%の順で続いた。この結果は、若い世代が思う「年金保険料は払い損？ という声」が影響しているのか。いずれにせよ、今の年金受給者の額と若い世代の年金受給額に大きな差がないことを切に願う。

【図5】 あなたが年金を受け取る時期・金額の条件は、現在、年金を受け取っている方に比べ、どうなると予想しますか。
(回答は1つ)



(横%表)

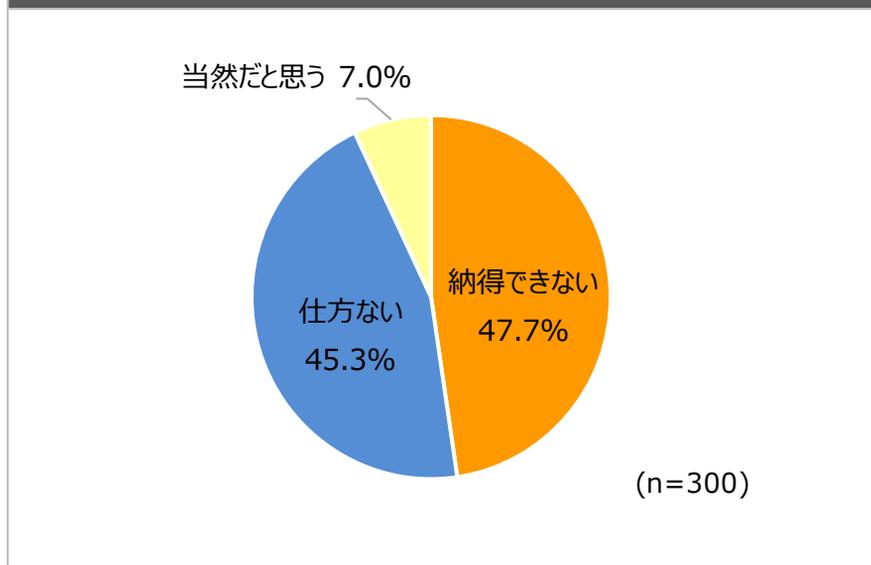
	年金を受け取る時期・条件					n
		悪化すると思う	現状維持	今より良くなっていると思う	わからない	
全体		76.0	10.3	2.7	11.0	300
年齢	20～34歳	76.0	4.0	4.0	16.0	50
	35～39歳	69.1	9.1	3.6	18.2	55
	40～44歳	79.0	9.9	3.7	7.4	81
	45～49歳	77.2	14.0	0.9	7.9	114
性別	男性	71.5	14.0	3.1	11.4	193
	女性	84.1	3.7	1.9	10.3	107
婚姻有無	未婚	76.1	9.7	1.7	12.5	176
	既婚	75.8	11.3	4.0	8.9	124
職業	会社員	77.6	13.7	2.2	6.6	183
	会社員以外	77.8	6.3	3.2	12.7	63
	パート・アルバイト	68.5	3.7	3.7	24.1	54

各項目を縦に見て最大値に彩色

若い世代の税金負担が増えることについて、「納得できない」が47.7%、半数を下回る！

少子高齢化社会により、若い世代の税金負担が増えることについてどう思うかを聞いたところ、「納得できない」が47.7%で最も多く、次に「仕方ない」の45.3%、「当然だと思う」の7.0%の順が続いた。賛否の結果はほぼ半々、ただし年齢別で見ると「納得できない」と回答した人は若い層になるにつれて多い傾向がみられた。若い世代の税金負担が、同年収の高齢者より重いといった問題もあるため、若い層に納得のいく見直しを期待したい。

【図6】 少子高齢化社会により、若い世代の税金負担が増えることについてどう思いますか。（回答は1つ）



(横%表)

		若い世代の税金負担が増えること			n
		納得できない	仕方ない	当然だと思う	
全体		47.7	45.3	7.0	300
年齢	20～34歳	62.0	24.0	14.0	50
	35～39歳	50.9	43.6	5.5	55
	40～44歳	46.9	48.1	4.9	81
	45～49歳	40.4	53.5	6.1	114
性別	男性	49.2	44.0	6.7	193
	女性	44.9	47.7	7.5	107
婚姻有無	未婚	50.0	41.5	8.5	176
	既婚	44.4	50.8	4.8	124
職業	会社員	47.5	44.8	7.7	183
	会社員以外	42.9	50.8	6.3	63
	パート・アルバイト	53.7	40.7	5.6	54

各項目を縦に見て最大値に彩色

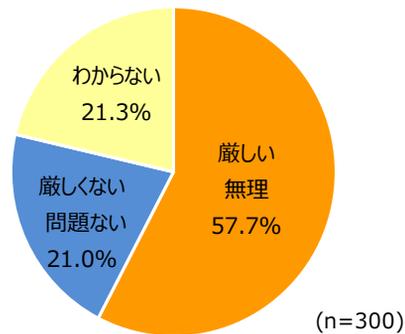
現在の職場で65歳まで働くことになった場合、厳しい/無理と感じている人が57.7%！

現在の職場環境・仕事内容で、65歳定年まで働くことになった場合、どう思うかを聞いたところ、「厳しい/無理」の57.7%が最も多く、次に「厳しくない/問題ない」の21.0%、「わからない」の21.3%の順で続いた。2025年4月から高年齢者雇用安定法により65歳定年制がすべての企業の義務となるが、「厳しい/無理」と感じている人には支障のある制度と予想される。

年齢別でみると、「厳しい/無理」と感じている人は「20~34歳」で最も多かった。

【図7】 2025年4月から高年齢者雇用安定法により65歳定年制がすべての企業の義務になります。あなたの現在の職場環境・仕事内容で、65歳定年まで働くことになった場合、体力的・精神的・環境面など含め、総合的に見てどうですか。（回答は1つ）

現在の職場での65歳定年	n	%
非常に厳しい/絶対に無理	62	20.7%
やや厳しい/やや無理	111	37.0%
あまり厳しくない/あまり問題ない	50	16.7%
全く厳しくない/全く問題ない	13	4.3%
わからない	64	21.3%
全体	300	100.0%



(横%表)

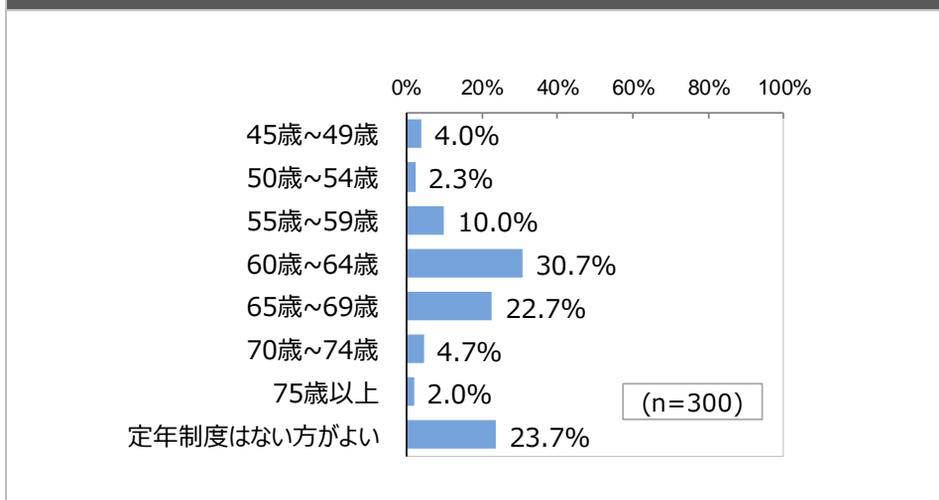
		現在の職場での65歳定年			n
		厳しい 無理	厳しくない 問題ない	わからない	
全体		57.7	21.0	21.3	300
年齢	20~34歳	64.0	14.0	22.0	50
	35~39歳	52.7	20.0	27.3	55
	40~44歳	58.0	23.5	18.5	81
	45~49歳	57.0	22.8	20.2	114
性別	男性	52.3	25.4	22.3	193
	女性	67.3	13.1	19.6	107
婚姻 有無	未婚	52.3	19.9	27.8	176
	既婚	65.3	22.6	12.1	124
職業	会社員	59.6	23.5	16.9	183
	会社員以外	54.0	20.6	25.4	63
	パート・アルバイト	55.6	13.0	31.5	54

各項目を縦に見て最大値に彩色

公的年金の受給開始が65歳の場合、希望の定年は「60～64歳」30.7%が最多！

公的年金の受給開始が65歳の条件で希望の定年は何歳かを聞いたところ、「60～64歳」が30.7%で最も多く、次に「定年制度はない方がよい」の23.7%、「65～69歳」の22.7%の順で続いた。公的年金の受給開始年齢の65歳までは働らかざるを得ない状況がうかがえた。一方、「現在の職場での65歳定年」との関連をみると、希望定年「50～64歳」を回答した人は、現在の職場で働くのは総合的にみて「厳しい/無理」が最も多かった。年金が少なく、かといって自己資金もなくて、生活のためには働くしかないが、働くのは厳しい/無理といった負の連鎖を及ぼしていると推察した。

【図8】 法律に関係なく、あなたが望む定年は何歳ですか。ただし、公的年金の受給開始年齢は65歳として、ご回答ください。（回答は1つ）



(横%表)

	希望の定年								n
	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	定年制度はない方がよい	
全体	4.0	2.3	10.0	30.7	22.7	4.7	2.0	23.7	300
65歳までの就労状況									
厳しくない / 問題ない	4.0	4.0	13.9	39.9	18.5	4.0	2.3	13.3	173
厳しくない / 問題ない	1.6	0.0	3.2	27.0	39.7	9.5	1.6	17.5	63
わからない	6.3	0.0	6.3	9.4	17.2	1.6	1.6	57.8	64

表側項目内を縦に見て最大に彩色

(横%表)

	希望の定年								n
	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	定年制度はない方がよい	
全体	4.0	2.3	10.0	30.7	22.7	4.7	2.0	23.7	300
年齢									
20～34歳	2.0	4.0	12.0	32.0	22.0	0.0	2.0	26.0	50
35～39歳	5.5	1.8	7.3	32.7	16.4	1.8	1.8	32.7	55
40～44歳	2.5	1.2	9.9	32.1	27.2	8.6	1.2	17.3	81
45～49歳	5.3	2.6	10.5	28.1	22.8	5.3	2.6	22.8	114
性別									
男性	5.2	3.1	10.9	26.9	23.3	4.7	1.6	24.4	193
女性	1.9	0.9	8.4	37.4	21.5	4.7	2.8	22.4	107
婚姻有無									
未婚	3.4	2.8	8.0	29.5	20.5	4.0	3.4	28.4	176
既婚	4.8	1.6	12.9	32.3	25.8	5.6	0.0	16.9	124
職業									
会社員	3.3	2.2	11.5	32.8	24.0	6.0	1.1	19.1	183
会社員以外	6.3	4.8	6.3	28.6	20.6	3.2	1.6	28.6	63
パート・アルバイト	3.7	0.0	9.3	25.9	20.4	1.9	5.6	33.3	54

各項目を縦に見て最大値に彩色

サマリーレポートはこちらを参照ください。
 こちらを参照ください。

<https://istat.co.jp/investigation/2021/11/result>

- 統計分析研究所 株式会社アイスタットについて

【株式会社アイスタット（統計分析研究所）会社概要】

- ◇所在地 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-22-26 パラドール東高円寺3F（旧YTビル）
 - ◇設立 2011年6月2日
 - ◇代表者 代表取締役社長 志賀 保夫
 - ◇事業内容 株式会社アイスタット(統計分析研究所)は、統計学を礎とした情報サービス業 に従事しています。
- ◆本調査・弊社事業などに関するお問合せ先◆
- 統計分析研究所 株式会社アイスタット <https://istat.co.jp/>
 総務部 橋本 有子 (somu@istat.jp) TEL: 03-3315-7637/FAX: 03-3315-7660

書籍発売のご案内



監修：菅民郎
 著者：志賀保夫、姫野尚子
 出版社：オーム社
 価格：2,500円（税抜き）
 体裁：A5版256頁
 発売日：2019年9月

使える51の統計手法

本書はビジネスの世界で統計解析を身につけ、実務で使いたい、しかし、難解な統計解析にどのように取り組めばいいのかわからないとする方々を対象に統計手法をやさしく解説しています。

業務や卒業研究・論文などで良く使われる51個の統計手法をピックアップ。イラストと例題、図表を用いてわかりやすく解説しています。また各手法ごとに「使える場面」が掲載されているので、学びたい手法を見つけやすく、ピンポイントで学ぶことができる便利な1冊です。

アイスタットでは統計セミナーを定期開催しています。
 開催スケジュールは[こちら](#)をご参照ください。